

表7.1 時間空間的に見た所得格差

総労働所得に占める 各グループの比率	低格差 (≈ 1970-80 年代 スカンジナビア)	中格差 (≈ 2010 年 ヨーロッパ)	高格差 (≈ 2010 年 米国)	超高格差 (≈ 2030 年 米国?)
トップ10% (「上流階級」)	20%	25%	35%	45%
うちトップ1% (「支配階級」)	5%	7%	12%	17%
うち残り9% (「富裕階級」)	15%	18%	23%	28%
中間40% (「中流階級」)	45%	45%	40%	35%
底辺50% (「下流階級」)	35%	30%	25%	20%
対応するジニ係数(合成格差指 数)	0.19	0.26	0.36	0.46

労働所得格差が比較的低い社会(1970年代、1980年代のスカンジナビア諸国など)では、もっとも所得の多い上位10%が総労働所得の20%を稼ぎ、下位50%が約35%、中間の40%が約45%を稼いでいる。これに対応するジニ係数(格差を示す総合指標で値は0から1)は0.19。オンラインの専門補遺を参照。